2020年2月／3月　東京　共同研究応援プロジェクト（仮称）開催　　東京渋谷・(一財)言語交流研究所本部

2月7日㈮　酒井邦嘉、中村桂子、岩田誠、木村護郎クリストフ、茅野臣平、長江敏男、鈴木堅史、平岡一武

3月4日㈬　スザンヌフリン（オンライン）、酒井邦嘉、坂田明、塚原祐輔、長江敏男、木村護郎クリストフ、ハビエルマレス、マルタマレス、鈴木堅史、平岡一武　（敬称略）

新型コロナウイルス拡大の影響で、渋谷LINE CUB(2000人収容)で開催予定第７回LMPやオープントラカレ講座が中止になりましたが、LMPに来日予定だったスザンヌフリン教授とオンラインで繋ぎ、（一財）言語交流研究所理事・評議員・研究協力者による共同研究応援プロジェクト（仮称）が２回にわたって開催されました。

東京大学・MIT・（一財）言語交流研究所三者による「多言語の脳科学」共同研究の進行状況が酒井邦嘉教授より研究データをもとに報告され、その成果を今後のどのように世の中に発表していくのかについて闊達な意見交換がなされました。

「多言語の脳科学」共同研究成果の発表と多言語活動の本質からの提言、あるいは宣言のようなかたちで、様々な分野の有識者、賛同者を巻き込んでいきながら、2021年秋からのヒッポ40周年の記念事業に重ねていくのはどうかなど、共同研究第５期の集大成の発表に期待が寄せられています。

当日談話より

中村桂子さん
JT生命誌研究館　名誉館長
生命科学理学博士

ここで提言というのはとても良いと思います。酒井先生の多言語の脳科学研究は非常に意味があります。ヒッポの活動は榊原陽さんから始まりましたが、覚えているのは榊原さんの『公園の太郎ちゃん』*のお話です。ことばは勉強するものではなく、自然に身につけるものという意味ですね。チョムスキーの「生成文法」と重なります。ことばは、誰にでも生まれつき自然に入ってくるという原則を伝えてほしい。『太郎ちゃん』はすべての人をさします。

榊原さんの人間の言語に対する直感と酒井さんの科学的な実体の証明をあわせて、きちんと発信していくのはとても大事です。自然に入ってくるものなら、10でも20でも同じというマルティリンガルの視点を、脳科学研究からの具体的な事実関係をもとに発信していただきたいです。

一方多様性という観点から、絶滅する生物と消滅していく言語は同じで、言語が無くなっていく社会はおかしい、極端な英語中心主義ではなく、生き物としての人間の言語と多様性についても意識していただきたいです。

＊参照『ことばはボクらの音楽だ！』（明治書院）P49～「アメリカに行った太郎とことば」

第５期（2020年4月1日～2021年3月31日）「多言語の脳科学」共同研究　いよいよ集大成へ！

今年度も、家族や仲間で楽しい多言語の環境づくりや国際交流を進めながら、ヒッポファミリークラブの活動を基盤にして、「多言語の脳科学」共同研究を支えていきましょう。

豊かに多言語！
育てよう「共同研究基金」！

皆さまのご活躍とご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

「多言語の脳科学」共同研究基金

第５期（2020. 4. 1～2021. 3. 31）募金活動に、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

基金応募の対象

個人、グループ、団体
ご寄付は、個人、グループ、団体単位で受付いたします。
一口　1,000円　一口以上何口でも。

ヒッポファミリークラブの地域活動、ワークショップ、講演会、交流会などでも基金へのご支援をお願いいたします。
個人はもちろんグループや団体でもご寄付いただければ幸いです。
グループ・団体の場合は、一口1,000円の単位に限りません。

基金への募金方法

銀行振込みの場合は右記にお願いいたします。
銀行振込み手数料は、言語交流研究所が負担いたします。
言語交流研究所各本部でも受付いたします。

銀行名　城南信用金庫　渋谷支店（店番025）
口座名　一般財団法人　言語交流研究所
口座番号　【普通】４３２０３９

基金のお申込み お問い合わせ先
一般財団法人言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ
〒150-0002　東京都渋谷区渋谷2-2-10　青山H&Aビル3F
TEL. 03-5467-7041㈹　FAX. 03-5467-7040
フリーダイヤル 0120-557-761　http://www.lexhippo.gr.jp

育てよう

「多言語の脳科学」　東京大学・MIT・（一財）言語交流研究所

共同研究基金

News letter　ニュースレター　Vol.4

主　旨

一般財団法人 言語交流研究所 代表理事 **鈴木堅史**

2016年4月より、「多言語の脳科学」をテーマに東京大学・MIT（マサチューセッツ工科大学）・一般財団法人言語交流研究所の共同研究活動が始まりました。まず5年間の研究継続を目標に、多言語体験者の脳のメカニズムの解明に取り組んで参りましたが、この2020年4月より5年目を迎えます。

ことばを見つけ、生み出していく脳の働きに焦点をあて、人間の言語獲得の振る舞いをより明らかにしていこうという試みです。脳は複数の言語をどのように処理するのか、また多言語体験者の脳は新しい言語に出会った時にどう反応するのか、いくつかのテーマを立て、多言語獲得にかかわる脳のメカニズムを解明することがこの共同研究の目的です。

共同研究スタートと同時に『多言語の脳科学・共同研究基金』を設立いたしました。この4年間に沢山の方々にご支援・ご寄付を賜りまして心から御礼申し上げます。

第5期は、東京大学酒井邦嘉教授のご指導のもと学会などでも発表し、各方面に発信していく運びです。

一般財団法人言語交流研究所は、これまで三者による「多言語の脳科学」研究活動を全面的に支援し、その研究成果がヒッポファミリークラブの活動はもとより、日本や世界中の人々の営みに貢献していくものと確信しております。

集大成第5期（2020年4月～2021年3月）の「多言語の脳科学」共同研究活動と、それを支える研究基金へのご支援のほど、引き続きよろしくお願い申し上げます。

マサチューセッツ工科大学 言語学 教授 **スザンヌフリン**

この共同研究は、とても大切な、且つ今までにないユニークなプロジェクトです。母語の習得に関しては比較的多くのことが分かっていますが、第二言語、第三言語などの多言語の獲得について分かっていることは少ないのです。共同研究を通して、データを集め解析することで、人間の脳のメカニズムを解明していきます。

東京大学大学院 言語脳科学 教授 **酒井邦嘉**

複数の言語を操る脳のメカニズムを明らかにしたい。多言語習得によって、更に新しい言語を身につけることが容易になることを仮説として考えています。もしもそうであれば、脳の変化として十分に捉えられるはずです。ここ2年間は、ヒッポファミリークラブの皆さんにもご協力いただいて、バイリンガル（日本語が母語で外国語として英語習得者）とマルティリンガル（日本語、英語、スペイン語話者）の方を対象に、fMRIによる『カザフ語』認識調査を進め、そのデータを元に共同研究の成果を発表して参ります。

「多言語の脳科学」共同研究基金　第４期募金額

ヒッポファミリークラブメンバー、フェロウ、ご家族、フェロウ地域会、国際交流グループフェロウ、地域合宿事務局ほかより、沢山のご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

この４年間の共同研究基金総額を「多言語の脳科学」共同研究に充当させていただきます。

募金額
647,363円
Gracias!

第１期募金　2,234,335円
第２期募金　1,003,235円
第３期募金　935,318円
４年間募金総額
4,820,251円

第４期（2019年４月１日～2020年３月31日）の共同研究から

2019年６月17日(月)　東日本　酒井邦嘉先生ワークショップ「科学者チョムスキー～ことばを科学的に捉えるって？」

東京・国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟101

酒井教授の新刊をもとに、この本を読む朝／夜のオンライン読書会も盛り上がる中、酒井教授の「オッラー」とスペイン語でのあいさつから熱のこもった講義が始まりました。『すべての自然言語には共通の基盤があり、言語機能は生得的だとする「普遍文法理論」』を解説されながらチョムスキー理論の核心に迫り、聴衆200人はヒッポの多言語活動の体験に重ねて聞きました。会場には木村護郎クリストフ教授（上智大学外国語学部ドイツ語学科）や、集英社ほか出版界の方も参加され、このワークショップでお母さん方がチョムスキー言語理論や多言語の脳科学に熱く取り組んでいる姿に驚いておられました。

『チョムスキーと言語脳科学』
酒井邦嘉著
集英社インターナショナル新書

> 『言語ほど身近にありながらも奥深い謎は珍しい。子どもたちがいとも楽々と母語を身につけられるのはなぜか。その一方で、多くの大人にとって第二言語の習得が難しいのはどうしてか。そもそも言語には、なぜ複雑で精妙な文法があり、しかも多様な変化があるのだろうか。
> 　そうした謎の背景には、人間が自由に言葉を作れるのか、それとも言語は自然科学の法則によって成り立つのか、という根本的な疑問がある。この問題は文系と理系の対立のみならず、人間と自然という二項対立の困難でもある。本書は自然科学としての言語学を初めて確立したノーム・チョムスキーの思想の原点に立ち返り、その実験的証明を含めた言語脳科学の成果を分かりやすく紹介する。』
> 同著「はじめに」より

2019年10月13日(日)　北海道　2019年度第66回日本PTA北海道ブロック研究大会札幌大会

札幌市教育文化会館・ホテルロイトン札幌

記念講演　東京大学大学院総合文化研究科教授　酒井邦嘉「子どもの言葉と心を育むには」

主催：日本PTA北海道ブロック協議会（札幌市PTA協議会・北海道PTA連合会）　主管：札幌市PTA協議会
後援：公益社団法人PTA全国協議会　文部科学省　北海道　札幌市　北海道教育委員会　札幌市教育委員会他

酒井教授が、幼少から中学１年生まで過ごした北海道で、日本PTA北海道ブロック研究大会札幌大会が開催され、記念講演に北海道全域のPTA会員と、教育関係者1200名が集いました。

近年、札幌市中央区PTA連合会主催の講演会に、酒井教授が講師として招かれ、多言語をテーマに講演したところ参加した500名のPTA会員から、ぜひ教育関係者にも聞いてほしいという声が多数上がり、この度、北海道ブロックでの講演が実現しました。全道と東北から市議会議員、教員、PTA会員皆さんが集い、HBCジュニアオーケストラの演奏や副市長ご挨拶などから講演が始まりました。

酒井教授講演の主旨

『教育の真の目的は、元々脳に備わっていて、自立性の基礎となるような「生得的な能力」を引き出すことにあります。そのためには保護者や教師が、人間本来の生得性を正しく認識しなくてはなりません。生得性とは後天的な学習を必要としない能力のことですから、生得性を知らずに無理に押し進めようとする訓練では、歪みが生ずるのです。例えば、いわゆる学校文法（伝統文法）を教え込むことで、言語が本来持っている「生得的な文法」を鈍らせてしまう恐れがあります。講演では言語学者チョムスキーの「言語生得説」を基礎とした自然習得について分かりやすくお話しします』（開催要項一部より）

教育関係参加者の感想より

◆現在の教育が抱える「真の問題」を芸術と言語と脳科学という視点から突き詰めていったときに見えてくることに改めて気づくことができました。「教育は効率を求めるものではない」ことをしっかり胸に刻みたいと思いました。

◆コミュニケーションは会話や対話だと思っています。親子関係では必須。喋ることがその言葉を生んだり作ったりする脳の機能が人間にあるというのを前から注目していて、興味のある分野でした。人の悩みの種になりがちな多種多様な価値観のずれ。受け取る度に、発信している意図や意味、理由とはかけ離れていく、そのかけ離れを補修したり、改善していくのも言語であると講演を聞かせていただき、確信を更に強くするものでした。言葉の真っ直ぐさは心の真っ直ぐさとも思いました。「2より3以上」という哲学のお話とても胸に響きました。良く分かりました。この今の悩んだ世の中に届くといいなと思います。

▲ヒッポファミリークラブ主催講演会

◀酒井先生とヒッポメンバーによる演奏も

同日、（一財）言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ主催、札幌市教育委員会後援の多言語活動講演会「脳から考えることばの育て方」も開催、約250人が参加。酒井教授は「多言語の脳科学」から、人間のことばの原点を熱く伝えました。

◆酒井先生はユーモアを交えながらお話しされ、とても楽しくわかりやすく科学的説明も納得できました。言葉は数限りなくあるが、あるのは人間語ひとつ。ましてや英語が共通語ではなく、言語の多様性という豊かな考え方に基づいて、その人々の話す言語を尊重していきたいと思いました。

11月10日(日)　関西　特別講演会「ことばを歌え！こどもたち～脳から考えることばの育て方」

梅田スカイビルイーストタワー

主催：（一財）言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ　後援：大阪府・大阪市・大阪市教育委員会

関西のヒッポフェロウ・メンバー中心に、酒井先生の著書を読もうと準備も盛り上がり、当日は340名参加の大盛況。そのうち約50名が一般の方々で、質問も沢山寄せられ、脳科学から多言語活動への期待感あふれる講演会になりました。

酒井先生著書の感想から　今岡妙子（研究員・ヒッポフェロウ、大阪市）

「チョムスキーと言語脳科学」　集英社インターナショナル新書刊

今まで自分の思い込み（人間は進化するためにことばを身につけたと思っていた）や、考え方に新たな視点をもらえた私にとっては衝撃の一冊でした。プラトンの問題は、5才、8才の息子が日々ことばを作ってくることに重なりました。たとえば息子に「いつもお昼寝するね」といったら「ぼく寝りんぼうだから」と返ってきたり、息子から「ぼく暑がり、お母さんは暑がり？　寒がり？　ふつうがり？」ときかれたり。『サイエンス』は遠い存在でしたが、自分なりにサイエンス自然科学を楽しんでいきたいです。

「ことばの冒険」「こころの冒険」「脳の冒険」　いずれも明治書院刊

ヒッポファミリークラブで子どもたちと一緒に読みました。「ことばの冒険」の「これ」を子どもたちに何かと聞きながら読んだのですが、「これは　ものがたりの　本を　よんだ　男の子の　すきな　クジラの　くらしている　うみです」では（「これ」は）「クジラ!?」という答えが返ってきました。今まさにことばの木をそだてているところかなと思いました。

MISTI MIT International Science and Technology Initiatives GLOBAL SEED FUNDS

MITに国際科学技術を推進・支援するGlobal Seed Fundsという基金があります。「多言語の脳科学」共同研究が、研究テーマの新しさや研究のベースの実績が認められて、2017年～2018年の２年間、$15,620の研究補助をいただきました。MITの学生がこの研究のために日本を訪問したり、またMITでも共同研究を進めるなど、この基金によってMITやLEX Americaでも、共同研究が広がりました。

ご寄付者ご芳名

2019年４月より第４期共同研究基金の募金がスタートすると、全国から銀行振り込みで、また合宿やファミリーでの呼びかけ、各本部での募金など、2020年３月31日まで沢山のご支援をいただきました。ありがとうございました。

敬称略　〈円〉

2019年4月		
1日	高田勝子	2,000
	犀川育代	10,000
	泉大津Waldファミリー	10,000
22日	尾張地域合宿	13,932
5月		
13日	17YL　親ロン	7,000
14日	19春 ベトナム青少年交流グループ	7,300
22日	宮本信也	1,000
31日	ヒッポ茨城地域一同	624
6月		
10日	ゆうゆうファミリー	8,000
8月		
26日	調布・千歳烏山・府中 ファミリー有志	4,074
9月		
1日	長野まざーる合宿仲間 ＆まりんしゃ	13,000
5日	中洞麻衣子	41,500
6日	2019夏韓国家族交流グループ	1,741
11日	19春 韓国青少年グループフェロウ	7,613
24日	古澤不二子	10,000
27日	小川益子 犬山チャットファミリー	10,000
10月		
2日	豆田和子	10,000
7日	井内わか	30,000
	2019メヒコ青少年交流メンバー、家族一同	1,240
16日	2019雪学中央ABバスグループ	2,000
	関川正	10,000
21日	宮本信也	4,000
11月		
11日	京王ガレージセール・コスモス	10,000
12月		
19日	山田正明	1,000
20日	小川美鈴	1,000
	釜崎信男	10,000
20日	錦糸町ファミリー　櫻井陽子	3,059
25日	17親ロン同窓会有志	1,000
2020年1月		
6日	吉田靖子	5,000
21日	茨城＆栃木合同合宿	4,736
25日	平井裕利香	2,000
2月		
12日	石山裕雅	3,000
24日	ファミリー有志	5,000
27日	長江敏男	100,000
3月		
2日	2019大連パイオニア家族交流グループ	3,000
	笠原延行	3,000
4日	谷本和彦	100,000
24日	2020年青少年春交流 ベトナム有志グループ	9,500
26日	西武線・日高こまわばるしゃ ファミリー	10,000
27日	小泉幸子	10,000
30日	佐藤まなつ	10,000
	富士山合宿2020事務局	77,520
31日	2019カリフォルニア交流参加者	1,000
	えひメタボ合宿参加者	41,584
	板谷聡	2,000
	細見啓子	10,000
	山之内典子	5,000
	小出治史・上斗米正子	10,000
	関西ヒッポ本部募金箱	1,031
	東京ヒッポ本部募金箱	2,909
	合計	647,363